



マイたうん

障害児を普通学級に

市民団体、旭川市長に要望

道内の市民団体「どんなに障害が重くても地域の学校へ・連絡会議」の旭川地区代表の平田永さん(42)ら7人が8日、旭川市役所に西川将人市長を訪ね、子どもが障害の有無にかかわらず普通学級で共に学ぶ「インクルーシブ教育」の推進を求めた。

平田さんらは昨年6月に

「インクルーシブ教育」の重要性を訴える市民団体のメンバーら



も、障害児の学籍を居住地の小中学校に一元化することなどを求める要望書を

市教委に提出している。

障害児を持つ母親らが経験談を紹介。平田さんは「障害児も健常児と同じ権利を持っている。障害児や保護者の意向に寄り添い、一緒に悩み、考えてほしい」と訴えた。西川市長は「直接、保護者の話を聞き、具体的にイメージすることができた。課題は多々あるが、内部で検討したい」と答えた。

(古谷育世)